

令和5年度
伊那市事務事業外部評価報告書

令和5年12月
伊那市行政改革審議会

《目次》

1	はじめに	1
2	評価の概要	1
	（1）対象事業の選定（選定基準）	
	（2）評価の視点	
3	評価の結果	2
4	事務事業別評価内容	
	・ 高遠スポーツ公園プールの夜間営業	3
	・ B & G 海洋センター運営	5
	・ 伊那市消防団音楽隊	8
	・ 学習机の天板張替（地域産材使用）木育授業	10
	（参考資料）	
◆	行政改革審議会委員	13

1 はじめに

行政評価は、社会経済情勢や市民要望などに的確に対応できる行政経営を行うための一手法であり、「Plan（計画）⇒Do（実践）⇒Check（評価）⇒Action（見直し）」というサイクルの中で、事業の実施結果を検証するCheckにあたる部分として位置づけられているものです。

伊那市では、市民の視点から評価を行うことにより、行政評価の客観性及び透明性を高め、限られた経営資源の有効活用を図るため、平成21年度以降、外部評価を実施しています。

外部評価は、市の事業について、評価者がそれぞれの視点で課題や改善点を客観的に判断し、事業主体の妥当性、事業の必要性、有効性、効率性、適切性、公平性などについて評価（市長に報告）することにより、最小の経費で最大の効果を上げる市政の実現に向けて改善を図るものです。

令和5年度は、伊那市職員で組織する伊那市行財政改革推進委員会において外部評価が必要と判断した7事業の中から、伊那市行政改革審議会が4事業を選定し、委員8名による外部評価を実施しました。

2 評価の概要

(1) 対象事業の選定

事業効果の検証が必要と思われる事業から、行政改革審議会が次の4事業を選定しました。

事務事業名	主管課名
高遠スポーツ公園プールの夜間営業	文化スポーツ部 スポーツ課
B & G海洋センター運営	教育委員会 生涯学習課
伊那市消防団音楽隊	総務部 危機管理課
学習機の天板張替（地域産材使用）木育授業	農林部 耕地林務課

(2) 評価の視点

市の事業(施設)について、そもそも必要な事業(施設)かどうか、必要ならば行政が行うべきか、民間が行うべきか、行政が行うべき事業(施設)であっても、どの主体（国、県、広域連合、市）が行うべきかを5つの段階で判断し、「休止・廃止」、「事業主体の見直し」、「縮小・統廃合」、「事業内容の見直し」、「実施主体の見直し」、「拡大・充実」、「現状維持」の7つの区分により評価を行いました。

【第1段階】 そもそも、この事業が必要か？

① 目的を概ね達成し、実施意義が低下していないか。

② 社会情勢の変化の中で、事業を継続しても効果が期待できないのではないか。

③ この事業がなくなっても、利用者への影響がない（少ない）のではないか。

【第2段階】 誰が行うべきか？

① 民間への移管により、効率的に目的を達成できるか。

② 民間事業の利用により、効率的に目的を達成できるか。

③ 広域連合、県、国等の行政機関で行うべき事業であるか。

【第3段階】 事業の規模は適正か？

① 事業が過大または他の事業の利用等により、縮小・統廃合すべきか。

② 市民サービス向上に向けた見直しが必要であるか。

③ 事業規模は適正であるか。

④ 事業規模を拡大し、充実させる必要があるか。

【第4段階】 事業の利用状況は適切か？

① 利用状況に対し経費が高額であり、縮小すべきであるか。

② 市民サービス向上に向けて取り組み内容の見直しが必要であるか。

③ 利用状況は適正であるか。

④ 取組内容を拡大・充実させる必要があるか。

【第5段階】 事業の運営方法（運営方法は適正か）

① 事業の運営は民間委託すべきか。

② 市が直接管理すべきか。

3 評価の結果

事務事業名	評価結果
高遠スポーツ公園プールの夜間営業	事業内容の見直し
B & G海洋センター運営	実施主体の見直し
伊那市消防団音楽隊	現状維持
学習機の天板張替（地域産材使用）木育授業	事業内容の見直し

4 事務事業別評価内容

施設名	高遠スポーツ公園プールの夜間営業							
部局名	文化スポーツ部 スポーツ課							
設置目的	市民が水泳を通して、市民の健康の増進とスポーツの振興を図る							
施設概要	<p>【設置時期】 屋外プール：昭和55年、屋内プール：昭和63年</p> <p>【施設】 屋外プール：流水プール、ちびっこプール、スライダー 屋内プール：競泳用25m 6コース</p> <p>【営業日】 令和4年7月9日～8月28日（営業日32日） 定休日：火曜日</p> <p>【営業時間】 屋外プール：午前10時から午後5時 屋内プール：午前10時から午後9時</p> <p>【料金】 大人（一般、高校生） 200円、小中学生 100円</p> <p>【管理形態】 平成25年度から直営管理となり、現在は会計年度任用職員で管理人と監視員を雇用し対応している。</p> <p>※令和2年度・3年度は新型コロナウイルス感染拡大防止のため営業中止 ※令和4年度から営業日以外において、高遠小、高遠北小、高遠中の授業での利用がある。</p>							
	区分	平成29年度		平成30年度		令和4年度		備考
利用状況	営業日数(日)	38		37		32		
	日中利用者数(人)	8,331		7,229		3,898		
	夜間利用者数(人)	643		611		266		
経費内訳 (単位:千円)	旅費					73		非常勤職員通勤費
	消耗品費					264		次亜塩素酸ソーダほか
	光熱水費					873		上下水道料金
	通信運搬費					13		電話代
	工事請負費					1,641		スライダー補修
	賃借料					105		塩素注入器リース
	計	0		0		2,969		
人件費	正規職員数(人)	0.00人	0	0.00人	0	0.06人	417	
	非常勤職員数(人)	0.00人	0	0.00人	0	1.00人	2,116	
	合計	0		0		5,502		
財源内訳 (単位:千円)	国・県支出金							
	地方債					1,300		
	その他							
	一般財源					4,202		
	計	0		0		5,502		
現状と課題	<p>令和4年度の屋内プールの夜間利用者は、32日間の営業日数に対して266人で1日当たり平均約8人で、利用者の全く無い日もある。こうした中でも管理人とプールの監視員はそれぞれ最低1名は必要である。夜間の管理人と監視員の確保も苦慮している状況であり、夜間営業の在り方について検証が必要と考えられる。</p> <p>現在、昼間・夜間ともに営業は火曜日を定休日としている。夏休み期間中は利用者も多いため、夜間営業を廃止する代わりに火曜日の昼間に営業した方が住民サービスにつながると考えられる。</p>							

<p>評価結果</p>	<p style="text-align: center;">『事業内容の見直し』</p> <ul style="list-style-type: none"> ・高遠のプールを維持していくことは大前提であり、データ、子供中心の利用などから考えると、担当課の提案のとおり、現在の休業日である火曜日の昼間営業してその代わりに夜間営業を中止するのが妥当。 ・PR不足のため夜間の利用者が少ないのではないかという意見もあった。 ・火曜日の日中営業にして夜間は中止にするとしても、段階的に変えていくことも検討してはどうかという意見もあった。 ・夜間料金を値上げし、日中と夜間の利用料金の差別化やPRによって利用状況の改善が可能ならば、夜間営業の継続もあるかもしれない。
<p>主な意見</p>	<ul style="list-style-type: none"> ■夜間営業の廃止、火曜日営業について <ul style="list-style-type: none"> ・現状の夜間利用者数に対する費用対効果は低いと思う。火曜日営業する方が市民サービスの向上に繋がると判断される。 ・子供たちも多く利用する昼間を重視・優先という方向が良いのではないか。 ・全体としては経費節減に繋がり、利用も見込まれて健康増進にも寄与できるのではないか。 ・夜間営業については今までの利用状況等を検討して曜日を縮小するか、夜間は廃止して火曜日も営業するか、どちらか検討していただければいいのではないか。 ・データから鑑みて、夜間は廃止して火曜日の昼間営業するのが妥当。ただ、何か方法を考えてできるようならば検討する。利用料金を上げるとかPRするという必要かもしれない。 ・急に変えるのも影響が大きいので、2、3年かけて夜間を無くして火曜日営業に変えるというのが良いか。段階的な変更を視野に入れた上で検討していただきたい。 ■PR、料金について <ul style="list-style-type: none"> ・あまりにもプールのPRがされてない。利用料金も少し安過ぎるのではないか。大人を中心にPRして、1、2年運営してから判断しても良いか。 ・夜間営業に関しては、一律料金というのは少しおかしい気がする。もし夜間営業をするようであれば、人件費等を考えても、日中とは差をつけて営業すべき。 ■施設について <ul style="list-style-type: none"> ・高遠小、北小、高遠中の授業で利用していることから必要。 ・施設設備を今後も維持するということは、特に学校プールとしての活用ということを踏まえ、高遠町地区、近隣地区にとって有効かと思う。加えてプール自体の全体的なPRを強化することで、より効果が上がると思う。

事業名	B&G海洋センター運営							
部局名	教育委員会 生涯学習課							
目的	当該施設は、「子どもたちの心身の健全な成長を育む施設」という終わりなき所期の目的を達成するため、海洋性レクリエーションを軸とした青少年健全育成活動や地域住民の健康づくりなどを目的に活用されている。							
事業概要	<ul style="list-style-type: none"> ・開場期間(06/01-09/30)において、安全管理規定に基づき海洋センター(艇庫)の運営を行う ・艇庫には、OPヨットなど34艇を配備しており、要望に応じた船体を提供している ・運営/指導にあたっては、旧高遠町の職員22名(うち特殊小型船舶操縦士保持者8名)が、指導員(センターインストラクター/インストラクター/リーダー)として、勤務扱いで対応している(土日勤務は振替休暇対応) ・伊那市スポーツ協会の海洋部も兼ねており、例年、市民体育祭として1日無料開放を行っている ・利用者は、年間平均450名程度(コロナ禍前10年間の平均値)となっていた ※最高利用者1,523名/H19 ・県が主体となって行う工事の関係により、令和5年度から令和7年度まで高遠ダム湖が使用できないため、艇庫を休館とすることとなっている 							
実施・参加状況等	区分	令和2年度		令和3年度		令和4年度		備考
	営業日数・利用者数			1	11	6	82	
	利用料収入(千円)	新型コロナウイルス感染拡大防止のため運営休止		0		28		
	従事指導員(延べ人数)			30		60		
事業費内訳(単位:千円)	消耗品費	0		23		8		
	燃料費	0		7		7		
	光熱水費	4		6		14		
	その他	10		10		10		
	計	14		46		39		
人件費(千円)	正規職員数	0.01人	42	0.02人	169	0.12人	816	
	非常勤職員数	0.00人	0	0.00人	0	0.00人	0	
合計		56		215		855		
財源内訳(単位:千円)	国・県支出金	0		0		0		
	地方債	0		0		0		
	その他	0		0		0		
	一般財源	14		46		39		
	計	14		46		39		
現状と課題	<p>[現状]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・指導員の高職位化に伴って人員確保が困難になっている状況である ・積極的なPRを行っていないため、利用者範囲は伸び悩む状況である ・施設及び機材が高年式化してきているため、補修や維持管理が困難な状況になってきている <p>[次の行動]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・持続可能な施設にするためには、大幅な投入が必要である ・初期段階として最低限の運営職員の確保及びSUP等の興味深いアクティビティの実施である。 ・市として、地域資源活用の視点及び収益を得られる施設の活用の判断が求められる 							

<p>評価結果</p>	<p style="text-align: center;">『実施主体の見直し』</p> <ul style="list-style-type: none"> ・市でインストラクター育成が困難であれば外部委託が適切という意見が多かった。 ・外部委託する場合、委託先にB & Gの有資格者がいるかということが心配される。 ・様々な場所にB & G財団の施設が作られており、中には高遠湖より条件が不利なところも多くある。休館期間中に、他の地域・施設の運営方法やPR手法等を踏まえた事業者の選定、若年層・リタイヤ層の取り込みに向けた研究をしっかりと、再開時に新たなスタートが切れるように進めていただきたい。 ・拡大・充実という意見もある。都会から自然を求めてくる観光客、レジャー客も多くいるので、積極的にPRして伊那に来る目的の一つにしてもらうことも検討したらどうか。 ・委員にもこの施設を知らなかった方が多くいたので、まずはPRをしていただきたい。
<p>主な意見</p>	<ul style="list-style-type: none"> ■委託について <ul style="list-style-type: none"> ・市がやらなければならないが指導員確保が困難になってきているのであれば、やっていただける方を探すという流れになってくるかと思う。ただ、B & G財団との無償譲渡契約によってヨットやカヌーを他に譲渡または売却してはいけないと定められているということなので、新しく1からやりたいという方がいれば完全に民間委託でもいいかという気もする。 ・まずはPRをしっかりすることが必要で、その上で指定管理者制度等を使って外部に委託するのが妥当ではないか。市でインストラクターを育てるのが難しいならば外部委託しか選択肢がないような感じもする。 ・一旦委託して何年か費用対効果を見て、あまり費用がかかるようであれば再検討か。 ■見直しについて <ul style="list-style-type: none"> ・しばらく休館になるので、その間に若年層をもっと取り入れるようにPRも含めた見直しができたらと思う。県内、県外の結構な山奥にB & G財団がある。高遠湖よりもっと条件不利なところはどうしているかという研究、情報収集を行い、うまくいっているところはどうやっているかを検討していただければ。 ・ちょうど休館期間があるので、ここで収益性、集客力、時代に合ったものを見直していく。飯島町の話もあったが、既にB & Gのライセンスを持っている事業者がいればそれだけライセンス料の負担が軽減されるので、そうしたところも視野に入れながら検討いただきたい。 ・ほぼ知らない施設・設備だったが、聞いてみるととても魅力的な施設で、より積

	<p>極的なPRが必要。新たな機器も導入することによってその効果も出る、観光的な一つのツールになるのではないか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・青少年対象でもあるので、より事業の活性化を図るために、例えば高遠青少年自然の家のメニューの一つに位置付けるとか、何か協力体制ができないか。
<p>その他の意見</p>	<p>○事業内容の見直し</p> <ul style="list-style-type: none"> ・事業自体は継続していただきたい。委託やSUPを取り入れるというようなことも含めて、休館中に事業内容等の見直しを行っていただきたい。飯島町の委託による運営状況等も確認して、委託するかどうかも含めて検討していただきたい。 <p>○拡大・充実</p> <ul style="list-style-type: none"> ・なぜ積極的なPRを行ってこなかったのか疑問。これからは、こういうスポーツはもっとPRすれば盛り上がる。若い人たちに理解されてくるのではないか。海なし県でこういう海洋センターを設けておくことはとても大事なことだと考える。また、1人乗りの舟艇の対象年齢は小学校4年生からとあるので、学校教育の中に活かしていくことができる。高遠ダムが使えない間にぜひもう一度全体的な見直しをしっかりと考えて、できれば拡大充実の方向で考えていただきたい。 ・B&G海洋センターは、今回、外部評価の対象になって初めて知った。海なし県であるがゆえに子供たちに水に慣れ親しんでもらうという目的のためにも、事故防止を第一に考えて続けてもらいたい。まだこの施設を知らない市民も多いと思うので、もっとPRなどにも力を入れてもらえたら良い。

事業名	伊那市消防団音楽隊							
部局名	総務部 危機管理課							
目的	演奏活動を通して消防団をより身近に感じてもらえるよう地域との繋がりを大切にする事で、市民と消防団との融和を図り、防火や防災・防犯の啓発活動及び消防団活動のPRを行う							
事業概要	伊那市出初式など消防団と連携した行事のほか、パレードや定期演奏会、福祉施設、保育園を訪問しての演奏など、地域に密着した演奏活動を行っている。 地域に愛される音楽隊を目指し日々練習を重ねている。							
実施・参加状況等	区分	令和2年度		令和3年度		令和4年度		備考
	団員数(人)(4/1時点)	18		16		20		
	規律訓練	1回	11人	コロナのため活動減		2回	15人	
	保育園演奏	2回	21人					
	定期演奏会	1回	13人					
	イベント演奏					1回	19人	
事業費内訳(単位:千円)	交付金	700		485		520		
	報酬	18人	581	19人	555	23人	875	
	その他							
	計	1,281		1,040		1,395		
人件費(千円)	正規職員数	0.00人	0	0.00人	0	0.00人	0	
	非常勤職員数	0.00人	0	0.00人	0	0.00人	0	
	合計	1,281		1,040		1,395		
財源内訳(単位:千円)	国・県支出金							36,500× 0.96(交付税÷全団員報酬)× 隊員数
	地方債							
	その他	558		533		840		
	一般財源	723		507		555		
	計	1,281		1,040		1,395		
現状と課題	コロナ禍により活動が止まっていたが、徐々に活動を始めている。 定数には足りないが団員数は増加している。							

<p>評価結果</p>	<p style="text-align: center;">『現状維持』</p> <ul style="list-style-type: none"> ・音楽隊の意義について大変評価しているという意見が多かった。消防団自体なかなか入団していただけない中で消防団のPR活動に寄与しており、また、中学校とのコラボや定期演奏会など、音楽で伊那市の文化的な要素を下支えしている面も見られる。 ・コロナで活動は停止していたが、コロナも明けたのでこれから引き続き活躍していただきたい。
<p>主な意見</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・防災・防火の啓蒙活動や消防団活動のPRの役割がある。 ・防火や防災防犯への啓蒙、啓発活動の役割ということでも存在自体は必要。消防団が所属する自治体がやるということなので、民間委託とかは考えられない。 ・市民ボランティアによる消防団活動は大変重要だが、なり手不足というところがある。それを改善できるように、PR活動の一環として音楽隊の活動が継続されることが必要ではないか。また、文化的、音楽という面で、様々な場面場所で演奏活動が可能であるならば、そのこともよりPRをして、結果、消防団の活動への理解や親しみが進めば良い。 ・そんなに経費がかかっているわけでもないのに、無理のない範囲で継続していただけたら、様々な意義があると思う。 ・楽しみにしている市民は大勢いると思う。本来の目的とは違うかもしれないが、吹奏楽愛好家、若い人たちの情熱の受け皿があって良かった。音楽隊に入って市民のために演奏をしようとなってくれば、なおのこと良い。 ・上伊那で唯一ということでも貴重な存在でもある。音楽を聞くとみんな笑顔になったり喜ばれるだろうし、広報も兼ねてできて一石二鳥で大変良いことだと思う。 ・他自治体等の動向もしっかり注視しながら、引き続き検討を続けていただきたい。
<p>その他の意見</p>	<p>○拡大・充実</p> <ul style="list-style-type: none"> ・大阪市では財政が厳しいので文化的なものをバサバサ切っている。経済的には健全化するのかもしれないが、文化はやはり大切にしていけないといけない。特に音楽や芸術は行政がバックアップしないとイケないところがある。何よりも本来業務であるPRをしっかりしていただくことが大切。中学生とのコラボも、地元の人が中学生の音楽教育に寄与するというのものはものすごく重要なことだと思う。教育的にも効果を上げているということがあるのならば拡充すべき。

事業名	木育授業 学習機の天板張替(地域産材使用)							
部局名	農林部 耕地林務課							
目的	<p>地元のカラマツで作った機の天板を自分たちで交換することで木のぬくもりを感じ、県の職員から森林等についての学ぶ機会を設けることで、身近な森林に興味を持ってもらう。</p> <p>また、将来的に森林・林業関係の仕事に就く、所有する森林の管理を行うことを目的とする。</p>							
事業概要	<p>市内16小学校のうち、過疎地域及び小規模特認校の計5校のみではあるが、4年生の機の天板を地元産材のものと交換している。その後、卒業まで使い続け、卒業時には、天板をプレゼントしている。補助率3/4、上限500千円の県補助あり。</p> <p>ただし、令和3年度まで発注していた上伊那森林組合で受注できなくなり、市内製材会社に発注したところ、倍以上の価格となった。</p> <p>R4 当初予算 790千円 9月補正 1,168千円 計 1,958千円</p> <p>R5予算要求では、1枚当たり(税込) 21,450 ~ 23,100 円 69人分を計上</p>							
実施・参加状況等	区分	令和2年度		令和3年度		令和4年度		備考
	対象児童	72人		49人		75人		
事業費内訳 (単位:千円)	委託料	695		579		1,733		
	その他							
	計	695		579		1,733		
人件費 (千円)	正規職員数	0.02人	104	0.02人	104	0.02人	104	
	非常勤職員数	0.00人	0	0.00人	0	0.00人	0	
	合計	799		683		1,837		
財源内訳 (単位:千円)	国・県支出金							
	地方債							
	その他							
	一般財源	695		579		1,733		
	計	695		579		1,733		
現状と課題	<p>機の天板替えの際に県の職員により森林・林業の勉強会も同時に行うことで、身近な森林に対し意識の向上に繋がっていると思われる。</p> <p>しかし、予算の関係等もあり実施小学校が過疎地域と小規模特認校に限られてしまっている点に問題があると感じている。</p>							

<p>評価結果</p>	<p style="text-align: center;">『事業内容の見直し』</p> <ul style="list-style-type: none"> ・行政の下の公平性が保てないのではないかという意見が最も多く出た。拡充と評価した委員も休止・廃止と評価した委員も、結果として評価は変わっているが、概ね方向性は同じである。改善するにはある程度の予算が必要になる。天板が適当かどうかということも含めて、事業内容を抜本的に見直していただきたい。腰板、箸、筆箱、床材など色々な意見が出たが、担当課で良いアイデアを出して、改善、見直していただきたい。 ・学校林の利用についても一度見直していただきたいという意見が出ている。学校によって有無等あるかもしれないが、身近なところ、今の資源でできる林業教育を合わせて進めていただきたいという意見もあった。
<p>主な意見</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・地域産の木を使うという目的はとても良いが、やはり市全体の学校を対象としないと良くない。例えば木をキットにしておいて、地元のカラマツで自分の筆箱を作って使うとか、全市内の生徒ができるものを検討してやるのはどうか。 ・子供の時に地元産材に触れるということは意義があると思う。そうするとやはり全校の方が良い。例えばお箸とか、毎日身近に触れることで思い出すきっかけになるような物があれば良い。 ・県の補助があるにせよ、市の財源を使っている以上、市民サービスとして16校中5校しかやっていないのは公平ではない。ほかの形でできることを検討して、全ての小学生に公平にやるべき。 ・伊那市は森林に囲まれた市ということで、行政で50年の森林ビジョンを推し進めていく市である。それを取り入れた学校教育は市の方針として大変重要なところであるので、必要性は大いに理解できる。ただ、行政の下の公平性や予算規模のことがあるので、抜本的な事業内容の改善、改良、見直しが必要と考えられる。天板以外の方向性について、担当の皆さんで考えていただきたい。 ・木育事業そのものは何らかの形で学校なり保育園なりに取り入れていくことも良いが、目的を考えると机の天板にこだわる必要はない。市全体の学校に行き届くように考えると、もう少し方法を考えていただいた方がいい。目的に入っている「森林、林業に関心を寄せる」をどのように考えるのか。学校林の活用というところをもう一度見直してもらえればありがたい。

その他の 意見	<p>○休止・廃止</p> <ul style="list-style-type: none">・現状、限られた児童に対しての事業であるし、見直しをすとしても少なくとも全校へ広げていくことは必要だと思うが、予算が膨大になる。より費用をかけずに木育をする方法は別にあるだろう。天板にこれだけの費用をかける事業については廃止が良いのではないか。 <p>○拡大・充実</p> <ul style="list-style-type: none">・現在5校しか体験できないというのはちょっと問題がある。予算の手当がつけば他校にも広げていく必要がある。一度に全部の小学校へ拡大するというのは難しい面もあると思うが、数年かけて全校に広げていくこと、天板以外の事業について検討し、全校でできる形に持って行っていただければ良い。
------------	--

(参考資料)

◆行政改革審議会委員（9人）

◎：会長 ○：副会長

氏名	所属団体	氏名	所属団体
◎松島 憲一	信州大学農学部	村田 和憲	一般財団法人 長野経済研究所
○赤羽 智恵美	伊那市女性人材バンク	田中 誠	伊那市金融団
平澤 きよ美	伊那商工会議所	小池 浩史	社会福祉法人 伊那市社会福祉協議会
小境 照雄	関東信越税理士会 伊那支部	板山 ひとし	行政経験者
小口 知彦	伊那食品工業株式会社		